

第15課 住まいと衛生

1. この課のねらい

- (1) 日常生活で使われる器具や設備のうち、ごく基本的なものの名称を覚えさせる。
- (2) 日常生活で使われる器具や設備の使い方と、使用上の注意について質問し、理解する能力を身に付けさせる。
- (3) ごみの始末や戸締まりなどについて助言を求める言葉と、それを基にしたやりとりを学ばせ、そのほかの場面に応用できるようにする。

2. 学習項目とその扱い方

〔会話一〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○このトイレは どうすればいいんでしょうか。(2) ○（自分で押しながら）こうやって、水を 流せばいいんですね。(4)	○これを 押すと、水が 出てくるでしょう。ほら。(3)
重 要 項 目		○トイレットペーパーを 買わないといけませんね。(5) ○トイレットペーパー以外は 使わないようにしないと、つまってしまいますからね。(7)

(2) 準備

- ①テープレコーダー、カメラ、電卓などを用意するとともに、トイレ、お風呂、洗濯機、ストーブ、給湯器などの中で、授業で利用できそうなものがあるかどうか確認しておく。
- ②また、それらの使い方についての質疑応答の応用会話を作り、前もってテープに録音しておく。

(3) 導入

- ①用意しておいたもののうちから、学習者がその操作の仕方を知っている物を何か一

つ使って、「この____は、どうすればいいんですか」と学習者に聞いてみる。

②学習者が十分に予習をしていて、本文中の文型などを使って答えられるようなら、次に別のものを渡すか、トイレや台所に連れて行くなどして、今度は学習者に操作の仕方を尋ねさせる。

③学習者の予習が十分でなければ、教授者が言葉を補うか、あるいは、一人で母の役と娘の役をやり、学習者に操作をさせてみる。このとき、教授者は学習項目の文型をなるべく多く使って、学習者の理解を確認する。

④次に、会話本文や応用会話のテープを聞かせて、何について話しているのか、どう操作すればいいのかなど聞いてみる。

(4) 練習

①会話本文や応用会話のテープを繰り返し練習させる。

②「～ばいい」は第14課の学習項目であるが、必要なら戻って形の練習をしておく。その後、準備しておいたものを使って、次のような練習ができる。原則として、教授者がBを行う。実物を操作しながら会話練習をするとよい。

A：このテープレコーダーは どうすればいいんでしょうか。

B：このボタンを押すと 音が出るでしょう。ほら。

A：こうやって、ボタンを押せば いいんですね。

③「～てしまう」には、ア. 動作の終了・完了、イ. 不都合な事態の二つの意味があるが、会話本文の中では後者の意味で使われている。まず〔4. 表現練習〕を使って練習する。意味や使い方を理解させるために、次のような会話を使って練習してもよい。

ア. 動作の終了・完了

会話練習 a 例：本を読む。

A：本は もう読みましたか。

B：はい。もう読んでしまいました。

会話練習 b 例：本を読む。

A：本は もう読みましたか。

B：いいえ、早く読んでしまいたいんですが、なかなか…。

A：ああ、まだ読んでいないんですか。

B：ええ、まだなんです。

1. 宿題をする
2. 予習をする
3. 台所の整理をする

4. 作文を書く 5. 部屋を掃除する

イ. 不都合な事態

会話練習 例：電車の中に忘れ物をする。

A：昨日は 大変でしたよ。

B：どうしたんですか。

A：電車の中に忘れ物をしてしまったんですよ。

B：そうですか。それは 大変でしたね。

1. 子供がやけどをする 2. 自転車がこわれる 3. 母が風邪をひく

④ ③までの練習が十分にできたら、会話全体の練習に戻る。用意しておいたいろいろな器具を使って、ロールプレーを行う。

〔会話－2〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○ごみは どうするんですか。(1) ○燃えないごみって、瓶とか 缶とかのことですね。(3)	○燃えないごみは、別にしたほうが いいわね。(2)
重要項目	○それじゃ、それは、後で 大家さんに 聞いてみます。(7)	○この辺は、きっと 燃えるごみと 燃えないごみと 出す日が 違う と 思いますよ。(6)

(2) 準備

ちり紙交換やごみの始末などの関連話題で応用会話を作り、テープに録音しておく。

(3) 導入

ごみの始末について、だれがごみを出すか、ごみにはどんな種類があるか、いつ、どこにごみを出すかなどを話し合う。

(4) 練習

①会話本文のテープを繰り返し練習した後、教授者と学習者でロールプレーを行う。教授者が母の役を行うが、学習者が林さんの部分をなめらかに言えるようになったら、いろいろ表現をかえてみたり、会話を広げて少し長くしてみたりして、教科書の形にとらわれずに練習するとよい。余裕がある学習者には、応用会話も利用して同様に進行。

②「～とか～とか」については〔3. 表現練習〕を使い、いろいろ言葉を入れかえて

練習する。

〔会話－３〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○あのう 台ふきってというのは 何に 使うんですか。(4)	○ふきんはね、食器なんかを ふくのに 使うんだけど、台ふきは、テーブルの上を ふいたりするものでしょ。(5) ○ぞうきんとは 別にしておいたほうが いいわね。(5)

(2). 準備

教科書 (P.202～P.203) の〔関連表現〕を読んてくることを宿題にしておく。

(3). 導入

①教科書 (P.203) の絵のぞうきんを指さし、「これは、日本語で何と言いますか」と聞いてみる。「ぞうきんといいます」という答えが返ってきたら、「そうですか。じゃ、ぞうきんってというのは、何に使うんですか」と聞いて、学習者の予習の程度を確認する。

②同様に、他の器具を指さして、「これで何をするんですか」とか「……するときは、どれを使いますか」などと聞いてみる。

③あるいは、名称や使い方が分からないものについて、学習者に質問させてもよい。このとき必要であれば、〔関連表現〕を見ながら言ってもいいことにする。

④最後に会話本文のテープを聞かせる。

(4) 練習

①会話本文を繰り返し練習する。

ア.「(台ふきはテーブルの上をふい) たりする (ものでしょ)」

「～たりする」については、まず、「～たり～たり」の形で定着させる。〔5. 表現練習〕を使い、使い方や意味が確認できたら、置きかえ練習をしたり、あるいはこの文型を使って答えるような質問をしたりするとよい。

練習例：日曜日はたいてい何をしますか。

日本語のクラスではどんなことをしますか。

イ。「(台ふき) っていうのは何に使うんですか」

〔2. 表現練習〕を使って練習する。なめらかに言えるようになり、余裕があるようなら、「～たりする」「～のに(使う)」の練習と併せて次のような形で会話練習をしてもよい。学習者の能力が高ければ、キューを与えず自由にやりとりさせるとよい。

練習例：台ふき、テーブルの上をふく

A：台ふきっていうのは何に使うんですか。

B：テーブルの上をふいたりするのに使います。

1. ふきん、食器をふく 2. ぞうきん、床をふく

3. ドライヤー、髪をかわかす

②個々の練習ができたなら、場面練習に戻り、部屋の掃除をしたいが道具がないという設定で、学習者と教授者でやりとりをする。なめらかに言えて問題がなければ、そのほかにも、犬小屋を作りたいが道具がない、自転車を修理したいが道具がないなどの想定で会話練習をするとよい。

〔会話－4〕

(1) 学習項目表

区 分	使 用	理 解
最重要項目	○はい、このドア・チェーンも かけておいたほうが いいですね。 (2) ○ (外をのぞくための小さい穴を指さして) これ 何ですか。(3)	○だれか 来たら、まず それで 確かめてみたほうが いいわね。 (8)
重 要 項 目	○あっ、よく 見える。(5)	○アパートは、不用心だから、戸締まりに 気をつけてね。(1) ○ちょっと、のぞいてごらんなさい。 (4) ○外からは、中が 見えないようになっているのよ。(6)

(2) 準備

①玄関や部屋、机、本箱、金庫、自転車などの鍵を用意し、授業でそのかけ方の練習

ができるようにしておく。

②そのほか、窓などの鍵、インターホン、のぞき穴など学習環境の中で使えそうなものをできるだけ多く探しておくといよい。

(3) 導入

①用意しておいた各種の鍵を見せたり、学習者の持っている鍵を出させたりして、「どの(何の)鍵ですか」「いつ鍵をかけるのですか」「どうやってかけますか」など、できれば実演を交じえて話し合う。

②その後、会話本文のテープを聞かせる。

(4) 練習

①会話本文を繰り返し練習する。

②「～たほうがいい」については〔1. 表現練習〕を使って練習し、形が定着したら、会話本文の「このドア・チェーンもかけておいたほうがいいですね」のところをいろいろにかえて(例:「窓の鍵もかけておいたほうがいいですね」「カーテンも閉めておいたほうがいいですね」)練習する。

③学習者に余裕があるなら、「～ないほうがいい」の練習もしておくといよい。

練習例: 食べる → 食べないほうがいいです。

1. 行く 2. 買う 3. 見る 4. 出す 5. 聞く

④その後、「風邪をひいたときはどうしますか」「窓が開いていますね。閉めましょうか」などと質問をして、「～たほうがいい／ないほうがいい」の文型で答えさせる練習をするとよい。

⑤場面練習では用意しておいた鍵を使い、実際にかけ方をやってみせながら会話練習をする。また、ドア・チェーンやインターホン、のぞき穴なども、あれば積極的に用いて会話練習をしたい。

3. 文型・文法に関する参考事項

(1) 「～ている」

ア. 動作の進行、継続

・林さんは、今、図書館で勉強しています。

・今、漱石の「こころ」を読んでいます。

イ. 動作の結果の状態 (専ら自動詞の場合)

・窓が開いています。

- ・エレベーターの前に男の人が立っています。

(2) 「～てある」

人が物に行為を及ぼした結果の状態（専ら他動詞の場合）

- ・窓が開けてあります。（風が入ってくるように）
- ・名前は書いてありますか。

(3) 「～ておく」

準備が整った状態にするための行為

- ・今晚、お客さんが来るので、お酒のおつまみを買っておきました。
- ・入口は開けておいてください。（まもなく他の人達も来ますから。）